

# 令和5年度 第5回 八千浦区地域協議会

## 次 第

日時：令和5年12月20日（水）午後6時30分～

会場：八千浦交流館はまぐみ 多目的室

1 開 会

2 会長あいさつ

3 議 題

【協議事項】

・若者の流出を防ぐ取組について

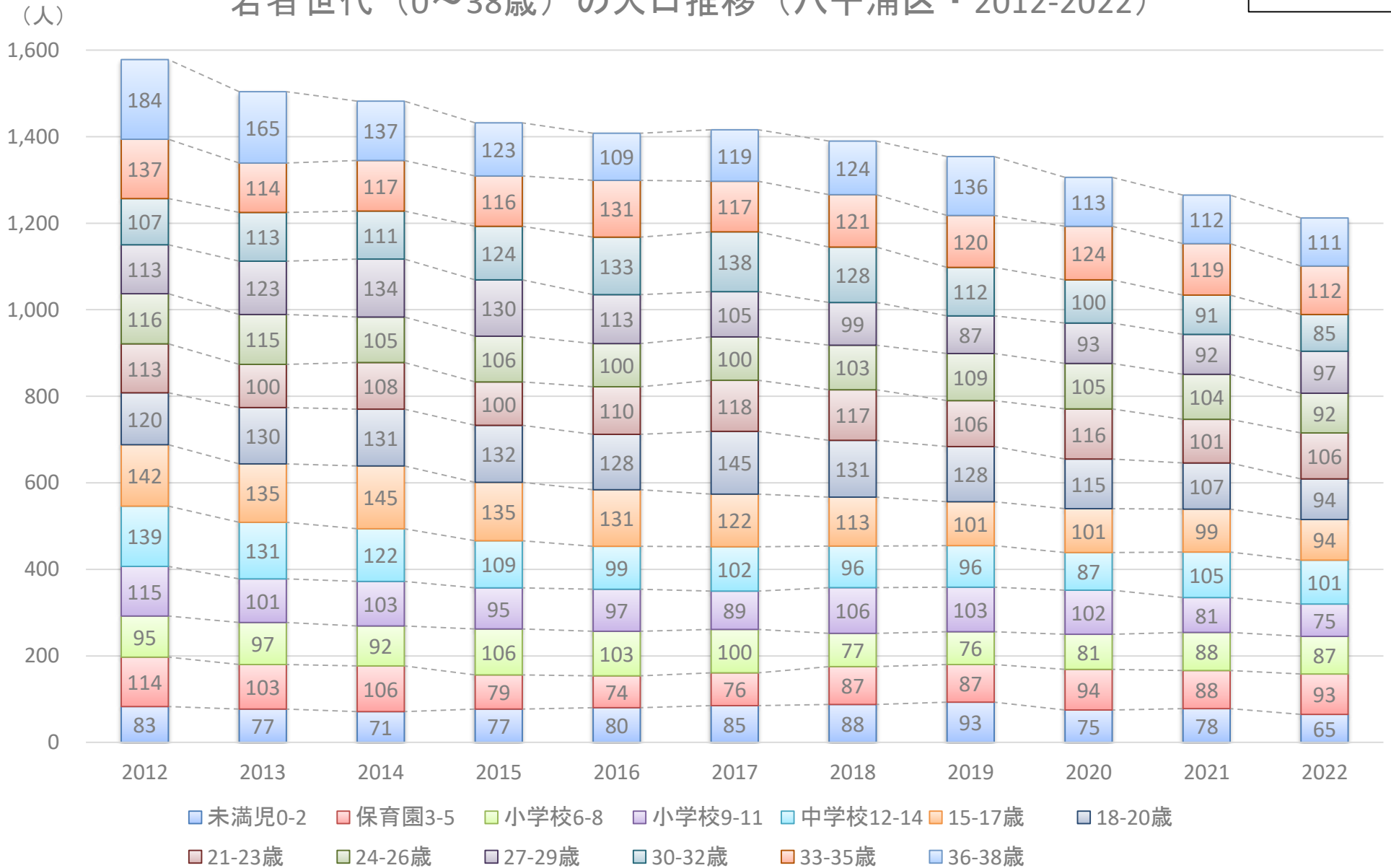
4 その他

・次回地域協議会

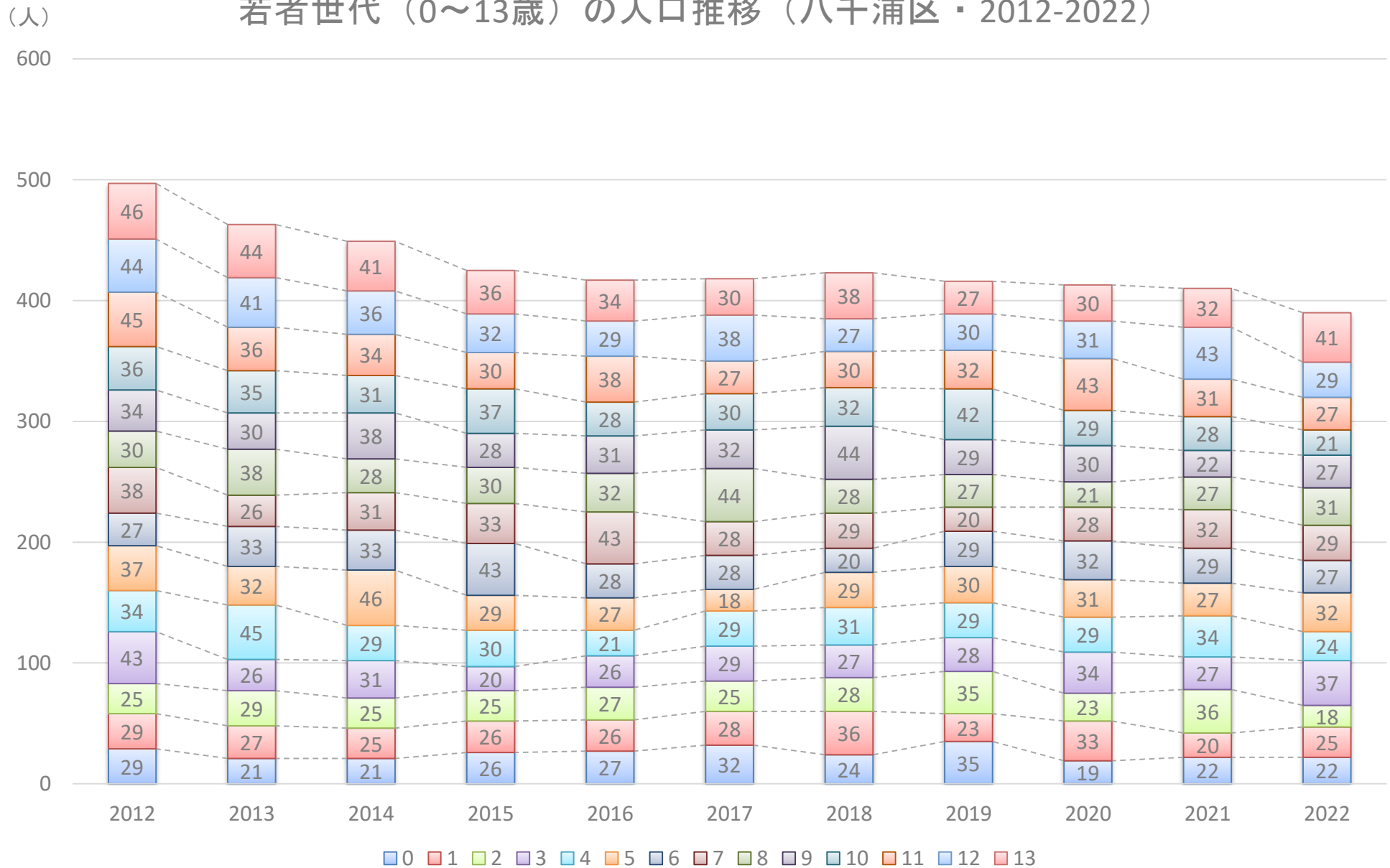
令和 年 月 日（ ）午後6時30分～ 八千浦交流館はまぐみ

5 閉 会

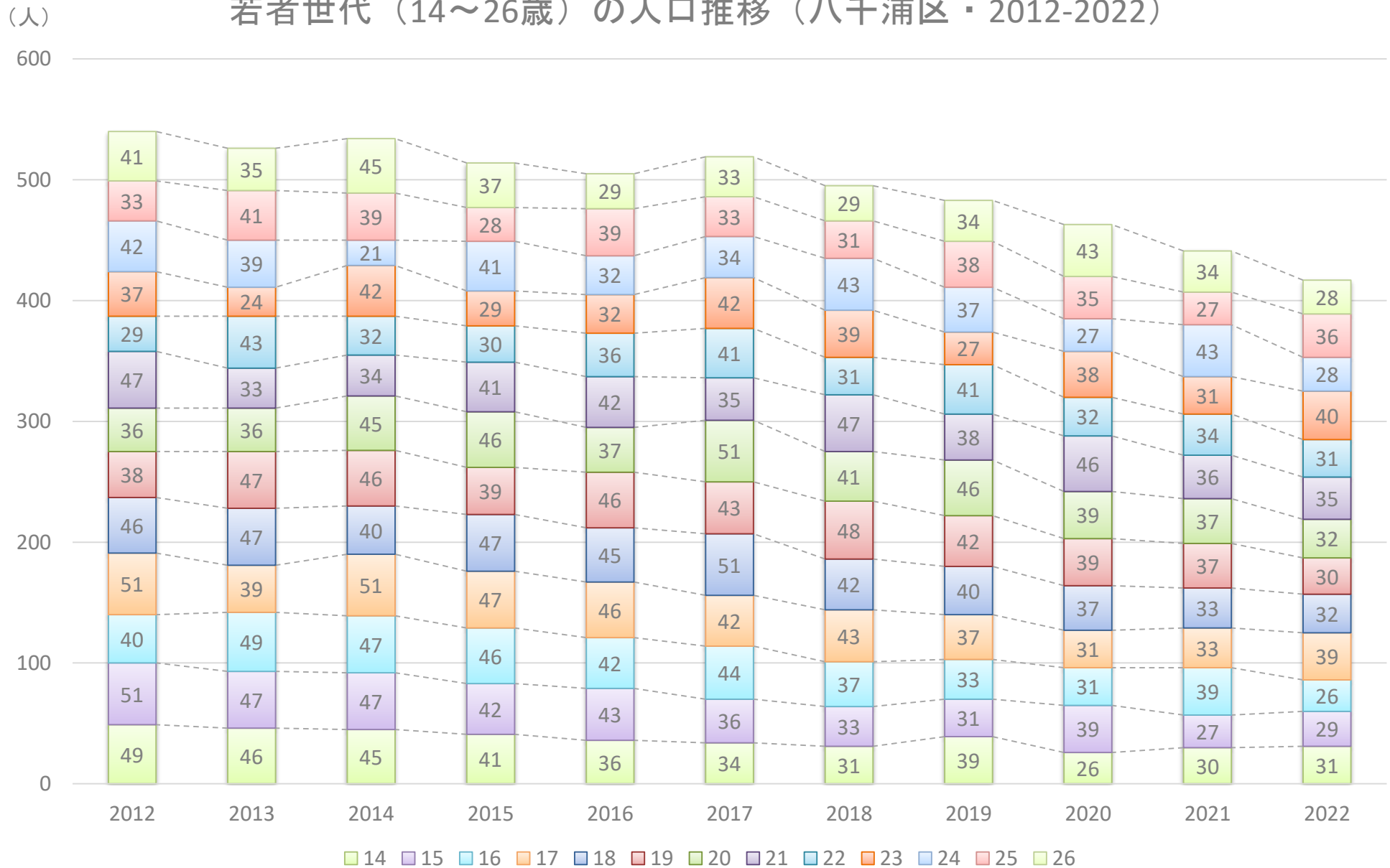
## 若者世代（0～38歳）の人口推移（八千浦区・2012-2022）



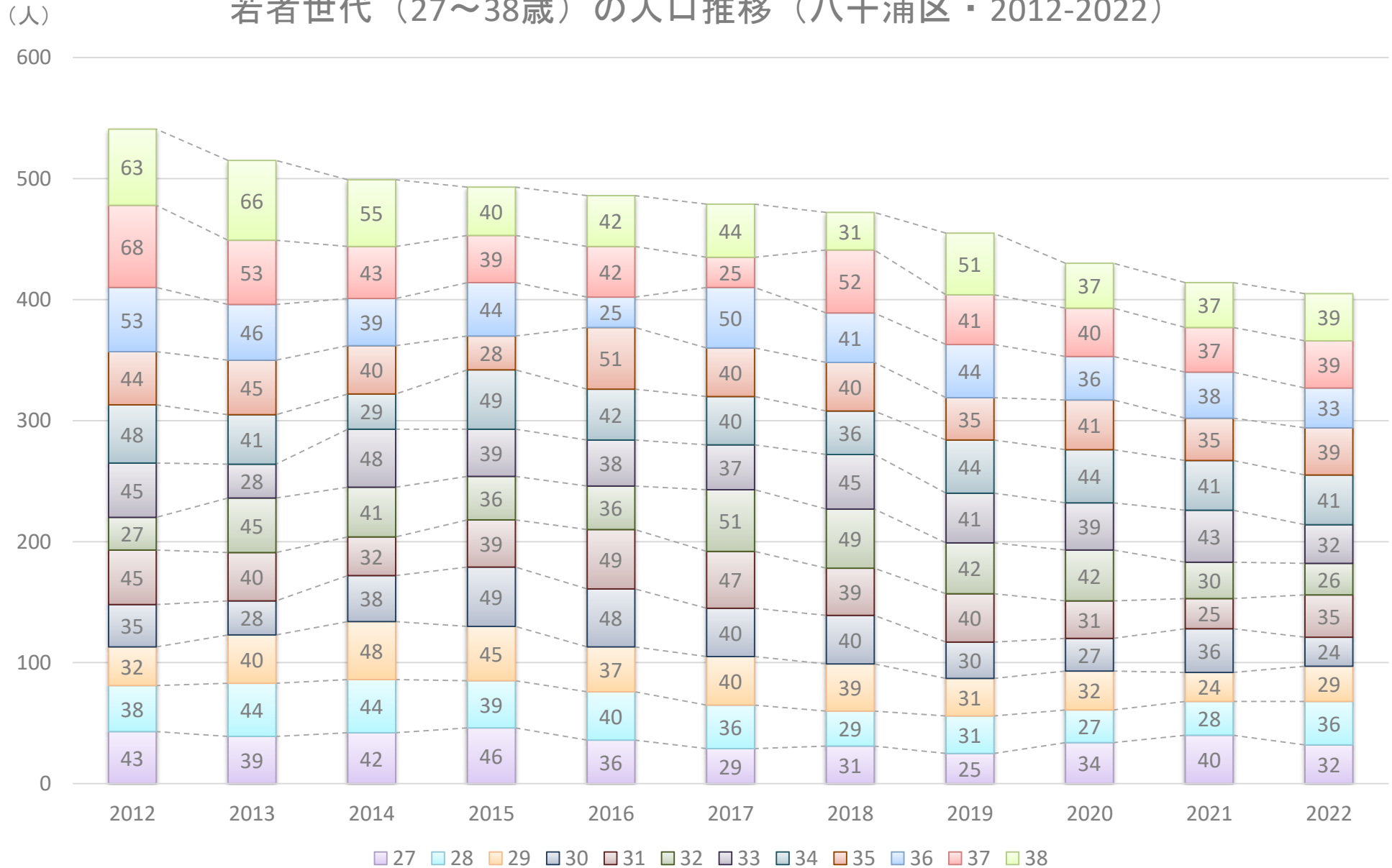
## 若者世代（0～13歳）の人口推移（八千浦区・2012-2022）



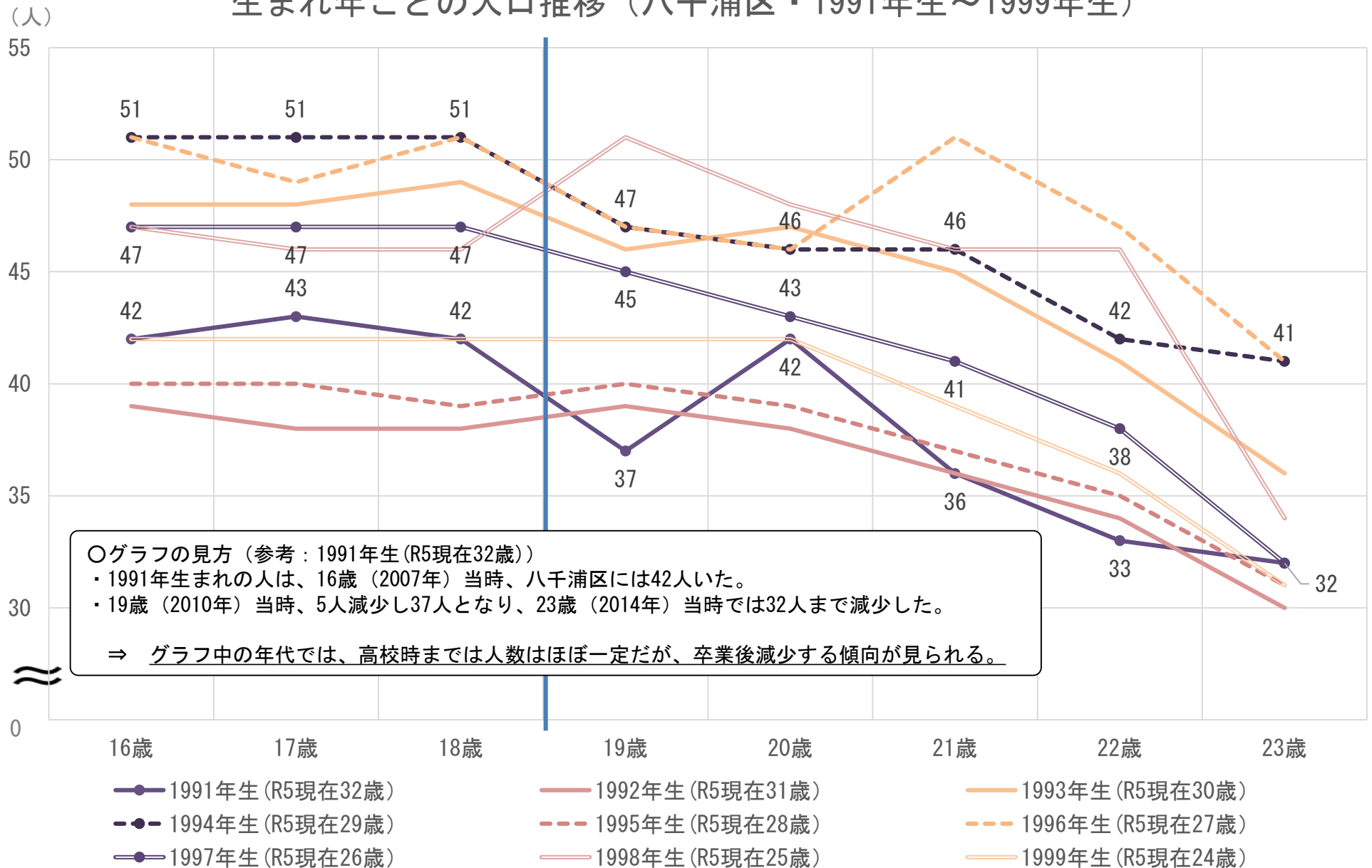
## 若者世代（14～26歳）の人口推移（八千浦区・2012-2022）



## 若者世代（27～38歳）の人口推移（八千浦区・2012-2022）



## 生まれ年ごとの人口推移（八千浦区・1991年生～1999年生）



## 八千浦区地域協議会における自主的審議事項

○ **保倉川放水路と八千浦区のまちづくりについて** (審議開始日 : R4. 3. 22)

(関係課 : 河川海岸砂防課)

保倉川放水路の建設は地域住民の生活等に大きな影響を与えるものであるが、八千浦区のまちづくりを再考する機会ととらえ、若い世代が集まってくるようなあたらしいまちづくりについて検討する

○ **海岸線の安全・安心について** (審議開始日 : R4. 3. 22)

(生活環境課、道路課、河川海岸砂防課、産業立地課)

- ・直江津港港湾区域の交通規制や道路の管理の在り方について、直江津港を利用する釣り人や地域住民の安全・安心の観点から、検討するもの
- ・海岸のごみは、住民でゴミ拾いを行っているが、地区外の来訪者が出すゴミや漂着ごみも多く、対応が追い付かない状態にある。海岸美化のために、地域住民やボランティア団体、来訪者が一緒にごみ拾いをするような仕組み等を検討するもの
- ・季節風のため道路に砂が堆積し、そこから草が生えて道幅が狭くなる。定期的な砂の除去等について、安全確保の観点から検討するもの

(参考1) 八千浦地区明るい町づくり協議会との意見交換会 (R5. 8. 4) (抜粋)

＜具体的なアイデア＞

- 今年、小木直江津航路に新しい船が就航した。フェリーを使っていない時間でサンセットクルーズなど、発電所の夜景や夕日が沈むところを見せてあげたらいいのではないか。
- 火力発電所の夜景や夕日を見ながらビアガーデンができたらいいのではないか。
- 日本海水化工株式会社の緑地をグランドゴルフで活用させてもらった。企業とも相談しながら、緑地の有効活用を検討できればよいのではないか。
- 西ヶ窪浜の松原に、キャンプ場を作ったらいいのではないか。
- 歴史文化の伝承・活用について、この地域には昔、塩田がたくさんあったので、塩作りを子供などに体験させてみたらいいのではないか。
- 人口減少対策として、若者が流出しないようにするため、八千浦区の住民を対象に、八千浦区の企業に限らず市内企業から企業説明会を開いてもらったらどうか。

＜その他＞

- 「地域活性化の方向性」を考える際や、地域の課題を考える際、具体的な活動に取り組む際には、多様性の観点から、女性も地域協議会の委員に入ってもらいたい。
- 米大舟を引き継ぐ若者がおらず、埋没しそうな状況にある。
- 保倉川放水路の関係で、予定ルート上に住んでいる若者は、放水路の整備を機に、区外に出ようと話をしている。どうしたら残ってもらえるのか。
- 魅力ある八千浦区をいかに作るか、ということに尽きると思う。安全安心なまち、文化が漂う八千浦区でありたい。魅力ある明るい地域づくりを検討していきたい。

(参考2) 地域活性化の方向性 (10月18日決定)

【キャッチフレーズ】

八千浦区の海岸線を中心とした豊かな自然と歴史・文化、地域の絆をいかして、世代や地域を超えて交流し、暮らす人や訪れる人の笑顔があふれる明るいまちを目指します。

【構成要素】

- ・地域活動やイベントへの積極的な参加・参画を通じた住民同士・地域間の交流促進
- ・地域一貫の小中学校を活かした絆の醸成、地域の担い手の育成
- ・歴史・文化の伝承と活用
- ・海、砂丘、防風林の保全・活用、火力発電所の夜景など新たな魅力の発信
- ・保倉川放水路計画を踏まえたまちづくりの推進